# 『新編　一宮町史』編さん事業の活動報告 No.7

## 東漸寺大般若経調査（近世、郷土史）

町では、令和4年度から10年計画で新たな町史『新編　一宮町史』の編さん事業を行っています。

旧『一宮町史』は、昭和39年（1964）に刊行され、刊行後60年が経過しています。

地域のアイデンティティである郷土の歴史を後世に伝えていくべく、編さん委員会を中心に調査活動を進めています。

このコーナーでは調査活動の様子を紹介していきます。今回は東漸寺の大般若経調査を紹介します。

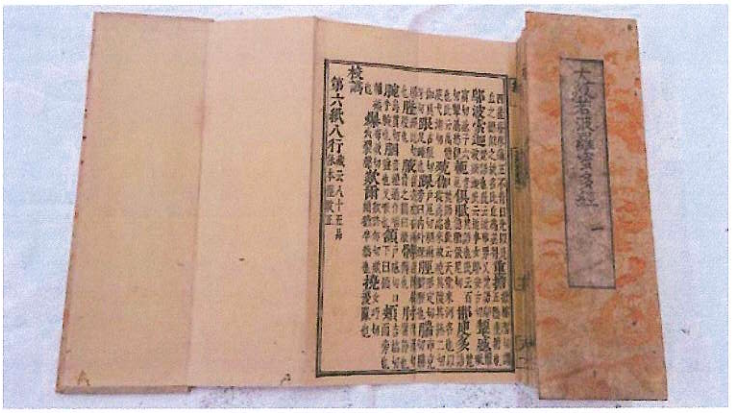
三嶋山東漸寺は、一宮町一宮字東院に所在する曹洞宗の寺院です。もとは密教系の寺院で小字東漸寺谷にあったといわれ、慶長17年（1612）に現在地に移転されたといいます。

東漸寺には大般若経600巻が伝来しています。大般若経は正式には「大般若波羅蜜多経」といい、仏教の教義が書かれているさまざまな般若経典を集成したものです。

かつて東漸寺ではこの大般若経の転読が行われ、正月と十月には奥谷・宮後・祓戸の地区の特定の家で祈祷が行われていたといいます（『一宮町史』）。

これまで本格的に調査をしたことがなかったため、令和7年夏に借用し、中央公民館にて600巻全てを開き、写真撮影を行いました。

今回の調査で明らかになったことは次のとおりです。



▲東漸寺の大般若経　第1巻

（1）「鉄眼版」（黄檗宗萬福寺の僧侶・鉄眼道光が中心となり、経典を広く普及させるために資金を募り、延宝年間に版木を作成、印刷されたもの）と呼ばれる大般若経であること。

（2）奉納者や購入時期については明確なことがわからず、いつ頃から東漸寺に伝来したのかは不明。巻末に奉納者（祈願者）とみられる人物が記載されているものもあったが、人物・年代の特定はできない。

（3）大般若経が収納されている外箱（6箱、1箱に100巻ずつ収納）の蓋裏書に、慶応2年（1866）に外箱を「再興」したとあることから、それ以前にはすでに大般若経が東漸寺にあったこと。

文政12年（1829）に東漸寺は火災にあい、古文書などは焼失したと伝わっていることから、この時の火災をこの大般若経は乗り越えて今に伝わっているのか、はたまたこの火災で焼失してしまい、新たに購入されたものなのか…などなど謎が多く残っています。

また外箱には、当時の一宮の名主で、東漸寺の檀家とみられる人々の名前が列記されていることも、重要な点です。幕末期の一宮の様子をうかがい知ることができます。

▲外箱の蓋裏書
外箱を再興（新しく作る）した際、中心となった名主たちの名前が記されている。

いずれにせよ、江戸時代まで遡れる貴重な資料が、600巻全て揃って残されていることは、一宮の歴史にとっても非常に意義のあることです。こういった地道な調査を積み上げていくことにより、『新編　一宮町史』が作られていきます。

（学芸員・江澤一樹）

**【問合せ】**教育課　☎（42）1416